

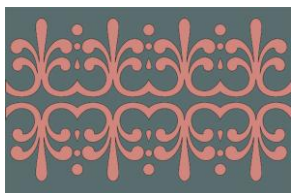
# 明治大正の装幀を楽しむ

平成26年2月22日～5月15日

鶴舞中央図書館では、明治・大正・昭和に出版されたさまざまな図書・雑誌の復刻版を所蔵しています。ふだんは書庫の中に入っていて、なかなかみなさまにご覧いただく機会がない復刻版の資料を、今回は明治・大正期に発行されたものを中心になりました。

文学史上に燦然と輝く文豪たちの作品が、もともとはどんなかたちで出版されていたのかを見ると、若き彼らの新鮮な息吹が伝わります。また、当時発行されていた雑誌の創刊号は、出版人がその理想や情熱を、装幀でいかに表現しようとしたのかを如実に語ります。

今回の展示資料は、復刻資料の中から、もっばら見て美しいものという観点で選びました。モダンで斬新な当時の装幀を、どうぞご堪能ください。



※なお、ガラスケースの外にあるものは、お借りいただけます。

## ○復刻雑誌の創刊号から

色鮮やかでデザインも斬新な雑誌たちです。どの雑誌もビジュアルで目をひく装幀になっています。それぞれの雑誌の簡単な説明を資料としてつけましたので、ご参考にどうぞ。一部、昭和初期発行の雑誌もならべてあります。明治・大正のものにくらべると、時代の流れを感じますね。

## ○文豪たちの作品の中から

「フランスへ行きたしと思へども　ふらんすはあまりに遠し」  
とうたったのは萩原朔太郎でした。（旅上 『純情小曲集』に収録）  
彼の第一詩集『青猫』（新潮社 大正12年）は、フランス綴じになっていて、未開封の状態のものと同ページを切ったものの両方をならべました。このほかにも、今回展示した作品にはフランス綴じになったものがいくつかあります。現在よりもフランス綴じが身近だったのでしょう。

## ○夏目漱石の作品から

ロンドン留学時代にたくさんの洋書にふれた漱石は、橋口五葉・津田清楓らによるモダンで瀟洒な装幀で自著をいろいろしました。当館では、漱石の復刻本を多数所蔵しています。その中には、漱石自身が装幀した作品もあります。ここに展示した『こゝろ』は、その一例です。漱石は序文のなかで、こう書いています。

「装幀の事は今迄専門家にばかり依頼してみたのだが、今度はふとした動機から自分で遣って見る気になって、箱、表紙、見返し、扉および奥附の模様及び題字、朱印、検印ともに、悉く自分で考案して自分で描いた。」（『こゝろ』自序より 岩波書店 大正3年）  
この装幀が、現在の漱石全集にも活かされています。

参考資料：

- 『恩地孝四郎装本の業』恩地邦郎/編 三省堂 1982年
- 『加藤まさをのロマンティック・ファンタジー』加藤まさを/画 国書刊行会 2013年
- 『装釘考』西野嘉章/著 玄風舎 2000年
- 『大正・昭和のブックデザイン』松原正世/編著 ピエ・ブックス 2005年
- 『落谷虹児』落谷虹児童/著 河出書房新社 2013年
- 『明治・大正詩集の装幀』工藤早弓/著 京都書院 1997年
- 『文豪の装丁』NHK「美の壺」制作班/編 日本放送出版協会 2008年
- 『本の美術』恩地孝四郎/著 誠文堂新光社 1952年
- 『モガ・オンパレード』小野佐世男展実行委員会・川崎市岡本美術館/編 岩波書店 2012年

資料1 雑誌の創刊号の中から			(一部昭和初期に発行されたものがあります)
誌名	発行所	創刊年	雑誌の特徴
アフィッシュ	七人社	昭和2年6月	ポスター研究雑誌。大正二末期に創設された図案家団体「七人会」の機関誌。
汽車汽船旅行案内	庚寅新誌社	明治27年10月	わが国初の月刊時刻表。創刊者の手塚猛昌は、時刻表の発行を恩師の福沢諭吉から勧められたというエピソードがある。
驥尾團子	團團社	明治11年10月	大衆誌。明治10年台前半の戯作復興に寄与した。
苦楽	プラトン社	大正13年1月	文芸娯楽雑誌。講談・人情噺と文壇小説の中間の層をねらう。
女性時代	女性時代社	昭和5年11月	文芸雑誌。女性の文学の発表の場として門戸をひろく開放。
白百合	東京純文社	明治36年11月	詩歌雑誌。「明星」のスタイルを模したとされる。前田林外・岩野泡鳴・相馬御風の三人により創刊された。
新紀元	新紀元社	明治38年11月	キリスト教社会主義運動の機関誌。発行人は石川三四郎。
青鞥	青鞥社	明治44年9月	女流文芸雑誌。創刊者は平塚明子(らいてう)。「元祖、女性は太陽であった」ということばで知られる。
大衆文藝	二十一日会	大正15年1月	大衆作家の親睦団体である「二十一日会」の機関誌。大衆文学創世期の中心的役割をはたした。
團圓珍聞	團々社	明治10年3月	週刊滑稽風刺雑誌。時代の先端をいく表紙のデザイン、鋭い滑稽・風刺性とグラフィックな要素を備えていた。
東京パック	東京有楽社	明治8年4月	漫画雑誌。全ページ漫画によるグラフ形式の大型雑誌。四色刷。本文には英語、中国語の訳文を付ける。
日本人	政教社	明治21年4月	国粹主義を唱道した思想・政論雑誌。明治中後期の思想界で「平民的欧化主義」と拮抗した。
風俗畫報	東陽堂	明治22年2月	はじめ石版画、のちに写真版が挿入されたグラフ雑誌。わが国で初めて誌名に「画報」の文字を用いた。
婦人畫報	近事画報社	明治38年7月	女性向きのグラフ雑誌。当初の編集長は国木田哲夫(独歩)。
婦人くらぶ	大日本雄辯會	大正9年10月	婦人雑誌。講談社(創刊時は大日本雄辯會)が婦人部門への進出をめざし創刊。
婦人世界	實業之日本社	明治39年1月	婦人雑誌。日本的な良妻賢母主義に立脚。最盛期31万部の「東洋一の発行部数」を誇った。
令女界	東京實文館	大正11年4月	少女雑誌。落谷虹児らの表紙・口絵は人気を博した。
赤い鳥	赤い鳥社	大正7年7月	児童雑誌。鈴木三重吉/主幹 近代児童文学の伝統を確立。
おとぎの世界	文光堂	大正8年4月	児童雑誌。小川未明/監修 「赤い鳥」の影響を受けて創刊されたが、独自の性格をもとうとした。
金の船	キンノツノ社	大正8年11月	児童雑誌。島崎藤村・有島生馬/監修 のちに「金の星」と誌名変更。前発の「赤い鳥」を文芸至上的とみていた。
参考文献:	『日本近代文学大事典5 新聞・雑誌』 日本近代文学館/編 講談社 1977年		
	『復刻 日本の雑誌 解説』 日本近代文学館/編集 講談社 1982年		
	『復刻版 明治大正時刻表 解説』 三宅俊彦/編 新人物往来社 1998年		

資料2 文豪たちの作品の中から		作品は名著復刻全集編集委員会/編 日本近代文学館/刊行	
著者名	書名	初版の出版社	初版の出版年
坪内雄蔵（坪内逍遙） 双葉亭四迷	新編 浮雲	金港堂	明治20年
鳳（与謝野） 晶子	みだれ髪	東京新誌社・伊藤文友館	明治34年
国木田独歩	武蔵野	民友社	明治34年
北原白秋	邪宗門	易風社	明治42年
谷崎潤一郎	刺青	笏山書店	明治44年
長塚節	土	春陽堂	明治45年
永井荷風	珊瑚集	笏山書店	大正2年
徳田秋声	あらくれ	新潮社	大正4年
森林太郎（鷗外）	沙羅の木	阿蘭陀書房	大正4年
里見弴	善心悪心	春陽堂	大正5年
田山花袋	時は過ぎゆく	新潮社	大正5年
芥川龍之介	羅生門	阿蘭陀書房	大正6年
長与善郎	項羽と劉邦	新潮社	大正6年
日夏耿之助	轉身の頌	光風館	大正6年
千家元麿	自分を見た	玄文社	大正7年
樋口一葉	たけくらべ	博文館	大正7年
萩原朔太郎	青猫	新潮社	大正12年
野口雨情	青い眼の人形	金の星社	大正13年
宮沢賢治	春と修羅	関根書店	大正13年
堀口大学	月下の一群	第一書房	大正14年
三木露風	お日さま	アルス	大正15年

資料3 夏目漱石の作品の中から		
書名	初版の出版社・出版年	復刻版の編者・出版社・出版年
鸚鵡	春陽堂 明治40年	日本近代文学館 1982年
草合	春陽堂 明治41年	日本リーダーズダイジェスト社 1979年
行人	大倉書店 大正3年	日本リーダーズダイジェスト社 1979年
こゝろ	岩波書店 大正3年	日本近代文学館 1982年
三四郎	春陽堂 明治42年	日本近代文学館 1982年
四篇	春陽堂 明治43年	日本リーダーズダイジェスト社 1979年
彼岸過迄	春陽堂 大正元年	日本リーダーズダイジェスト社 1979年
明暗（縮刷）	岩波書店 大正7年	岩波書店 2003年
門	春陽堂 明治44年	日本リーダーズダイジェスト社 1979年
吾輩ハ猫デアル	大倉書店・服部書店 明治38年	日本近代文学館 1982年
吾輩ハ猫デアル 中編	大倉書店・服部書店 明治39年	日本近代文学館 1982年
吾輩ハ猫デアル 下編	大倉書店・服部書店 明治40年	日本近代文学館 1982年